

平成 27 年度第 1 回

東御市地球温暖化対策地域推進協議会議事要旨

H27.8.24(月) 9 : 30～11 : 50

勤労者会館 2階大会議室

【出席者】

(委員：敬称略)

高橋 大輔、宮原 則子、郷原 辰実、中沢 豊彦、梅垣 敦(宮崎 徹哉)、白鳥 範男、小野 賢一、佐藤 千枝、新田 詔三、荻原 猛、工藤 浩平

[欠席：川口 隆也、関 正喜、森 まり子、中澤 亥三]

(事務局)

土屋市民生活部長、塚田生活環境課長、柳澤課長補佐兼環境対策係長、赤川環境対策係主任、竹内農林課耕地林務係主査

【配布資料】

- ・東御市地球温暖化対策地域推進協議会会議次第
- ・東御市地球温暖化対策地域推進協議会委員名簿
- ・東御市地球温暖化対策地域推進協議会設置要綱
- ・資料 (A3カラー)

東御市地球温暖化対策地域推進計画 課別推進施策総括表 (中期実行計画)

- ・東御市太陽光発電設備 まとめ (野立て、住宅、事業所、公共施設)
- ・東御市全体の電気使用量、売電量の推移
- ・市有林について

【議 事】

1. 開 会

2. 部長あいさつ

3. 自己紹介

4. 会議事項

(1) 東御市地球温暖化対策地域推進計画（中期）H26 年度実績について
承認

(2) 間伐について（市有林について）

(3) 意見交換

5. その他

6. 閉 会

【審議内容】

6. 会議事項

(1) 東御市地球温暖化対策地域推進計画（中期）H26 年度実績について

【1 番「メガソーラー（野立て太陽光）」について】

佐藤委員（くらしの会）

東上田区の矢立山の太陽光パネルが話題となっています。森林伐採してパネルを設置する場合は特に土砂崩れが心配です。崩れないような対策というのはあるのでしょうか。

塚田課長

東御市環境をよくする条例により、長野県の基準である「降雨強度式」に基づいて、10年に1度の大雨でも敷地内で雨水が処理できるような浸透施設を設置してもらっています。また、設置者には区長への事前説明もやっただいており、地元合意のもと市内で太陽光発電設備が普及するように努めています。

工藤委員

九州電力で再生可能エネルギーの買い取りが中断となるニュースがありましたが、中部電力さんは大丈夫でしょうか。

中沢委員（中部電力）

中部電力管内は現在、まだ大丈夫です。

【6 番「保育園の太陽光パネル」について】

宮原副会長

保育園の建て替えに伴ってパネル設置は完了したが進捗率は 82%ということで、当初計画より減ったということでしょうか、具体的にはどこの保育園が減ったのでしょうか。

事務局赤川

保育係に確認し、次回回答させていただきます。

【30 番「エコライフ DAY」について】

宮原副会長

エコライフ DAY の合計値が年々小さい値になってきている気がします。チェックシートの項目をもっと増やして、合計値を大きくしてはいかがでしょうか。

宮崎委員（長野都市ガス）

エコライフDAYは、自動車に関するCO₂排出量が大きいのので、たとえば安協さんと協力して、免許更新の際などに配るのもいいのではないのでしょうか。

事務局赤川

エコライフ DAY は、川口市の環境市民会議さんのエコライフ DAY チェックシートを毎年参考にさせていただいており、チェック項目も川口市さんのものに基づいています。川口市さんと協議して検討したいと思います。

また、交通安全協会についても同じ課の生活安全係が所管していますので、免許更新（特定任意講習会）の際にエコライフ DAY チェックシートを配布できるかということを検討させていただきます。

【8番「廃食用油のバイオディーゼル化」について】

工藤委員

廃食用油は拠点回収しているということですが、どこに置きに行ったら良いかあまり知られていないのではないのでしょうか。もっと広報しても良いと思います。

事務局赤川

庁舎建替もあり、回収場所を再度お知らせした方がと思います。かしこまりました。

【22番「学校給食での地元農産物の利用促進」について】

白鳥委員（信州うえだ農協）

J Aは平成26年8月から小中学校・保育園の栄養士と農林課と月一回会合を開いています。給食の現場によると、玉ねぎ、じゃがいも、にんじん（保存の利く、色々な料理に使える野菜）というのがやはり欲しいということです。なので、加沢地区の2haの玉ねぎ畑により、学校に売る予定です。

ちなみに直売所はJ Aや雷電、ゆらり市等があり、いつも大盛況で品薄状態です。学校に売るよりも直売所に出した方が高く売れると言う現実もあります。

また、東御市の食材を姉妹都市の大田区の小学校の給食で使ってもらうというのがあります。

【24番「高断熱住宅・省エネ建築物」について】

新田委員（自然エネルギー東御地域協議会）

省エネ改修減税の制度があるが、26年度は1件だけでした。日本はすぐ新築してしまい、既存住宅を改築して長く住もうとする人は少ない。省エネ改修をもっと進めて欲しいです。

(2) 間伐について（市有林について）

農林課竹内主査

市面積の半分が山林であり、山林全体の6割が国有林で、残りの4割が民有林です。木の種類についてはカラマツをメインとした針葉樹林が6割を占めています。

【間伐材について】

新田委員（自然エネルギー東御地域協議会）

間伐材の活用はなにか考えていますか。

農林課竹内主査

間伐材を燃料にすることによって、市の温泉施設で使う灯油使用量の削減を検討しています。また、薪材の市民への提供（薪ステーション）の検討をしています。

【松くい虫被害について】

工藤委員

昔は臭化メチルという、48時間で虫が死ぬ薬がありました。木材のくん蒸の時間が短いときれいな状態で木が残ります。これはオゾン層を破壊するということで今は使用が禁止されています。

参考：農水省 HP「臭化メチル削減対策に関する情報」(http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/g_meti/)

農林課竹内主査

現在のくん蒸は2週間で虫が死ぬものです。また、松くい虫は2kmは飛ぶので、周りの市町村と協力して駆除する必要があります。

高橋会長

虫が嫌う木の開発といったことはやっていますか。

農林課竹内主査

松くい虫はアカマツを好みます。虫が嫌うマツの品種改良の実験を東北でやっているようです。

荻原委員

間伐は二酸化炭素削減においてウェイトが1番大きいですが、材木の運送の効率化など課題はまだあります。

高橋会長

市有林を活用して「親子森林環境イベント」「森の幼稚園」などを行っているということで、市有林は面積的には小さいですが、モデル事業として今のように取り組んでいただき、皆さんに啓発していくというのは良いことだと思います。実際の森林運営よりも啓発という観点で続けていって欲しいです。

(3) 意見交換

郷原委員（東信森林管理署）

小諸市にある東信木材センターは、東信中の木材が集まってきます。カラマツは主に土木用材として、現在は主に東北の被災地へ運ばれていきます。また、現在は技術が発達していて、カラマツの丸太をかつらむきにして合板に加工しています。

また、塩尻に **F-POWER** プロジェクトという木質バイオマス発電所が建設中ですが、枝葉は木質バイオマス発電に使えますし、余すことなく使うことができるのが木材だということでした。

中沢委員（中部電力）

平成 27 年 1 月に、静岡県清水市で「メガソーラーしみず」（8MW）を運転開始しました。また、長野県内としては飯田市に「メガソーラーいいだ」（1MW）、安曇野市には「須砂渡水力発電所」（240kW）があります。

小野委員（三井金属）

剪定枝を回収し破砕機にかけ、チップとし、新潟へ持って行って明星セメント(株)の木質バイオマス発電に使われています。数量については次回会議でお示しできれば、と思います。

雑紙については 25 年度実績で、新聞 430 トン、雑誌・雑紙 406 トン、段ボール 140 トンをリサイクルしました。